

打合せ議事録

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 議 題 | 学校保健のDXに向けたデータ連携基盤の構築（町田市実証事業）
事業運営検討会（第2回） |
| 2. 期 日 | 2026年3月12日（木） 10：00～10：40 |
| 3. 場 所 | リモート会議(Teams) |
| 4. 出席者
（敬称略） | 実証事業推進兼システム提供（内閣官房デジタル行財政改革会議事務局、合同会社デ
ロイトトーマツ）、意見提供（文部科学省、APPLIC（一般財団法人 全国地域情報化
推進協会））

事務局（町田市 教育委員会保健給食課、デジタル戦略室、株式会社NTTデータ） |
| 5. 資 料 | 【会議資料】
事業運営検討会（第2回）配布資料 |
| | |
| | |
| | |
| | |

決定事項		
紙運用の測定結果は、シナリオ別比較に加え、工程別・タスク別でも整理し、PMH-Web運用との差分効果を比較分析す。紙運用は3月6日までに完了、PMH-Webは保護者分が完了済みであり、学校・医療機関分も予定どおり進め、第3回事業運営検討会(3/18)で集計・分析結果を報告する。 医療機関における診療報酬・文書料・保護者負担の扱いは、文科省通知等も踏まえて整理し、報告書の論点として反映する。		
保留事項		
工程3の測定範囲差異を踏まえた比較方法の見直し(特にシナリオ4/5との比較整理)。 子どもの持参時間や提出忘れ等、時間測定に現れにくい定性的効果の評価方法。 電子カルテと学校保健PMH(PMH-Web)の役割分担、記録先、連携方式の整理。 学校生活管理指導表と受診勧告書に係る費用負担・診療報酬・学校医との関係等の制度整理。		
議事内容詳細		発言者
01_会議趣旨・実証全体像		
1	会議趣旨 第2回事業運営検討会として開催し、先々週から開始した紙運用実施結果の中間報告を主題とした。冒頭の全体説明は町田市、詳細説明はNTTデータが担当する進捗とした。	町田市
2	実証の前提 紙運用とPMH-Web運用を同一シナリオで実施し、所要時間や業務負荷を比較する。学校現場で実際に使用している様式を使い、各工程を細分化して差分が把握できるように測定している。	町田市
3	測定方法・対象 各タスクはストップウォッチで時間計測し、あわせてヒアリング、アンケート、インタビューで定性情報を収集する。保護者役約40名が2回の計80名分の紙運用を実施し、共通工程後に受診勧告や学校生活管理指導表の分岐シナリオで個別測定した。	町田市
4	進捗状況 紙運用は3月6日までに全工程が完了した。PMH-Web運用も保護者分は3月6日に完了しており、学校・医療機関分は今週末で完了予定。第3回事業運営検討会(3月18日)に向けてデータ集計・分析を進め	NTTD
02_紙運用測定結果		
1	分析対象の整理 紙運用では77レコードを取得し、異常値等を除外したうえで、シナリオ別所要時間やバレット図を用いて負荷の高い業務を分析している。	NTTD
2	主な傾向 総所要時間は、保健調査票・問診票の入力量や、受診勧告/学校生活管理指導表の有無に依存する傾向が見られた。特に共通工程である保健調査票・問診票記入が大きな時間割合を占めている。	NTTD
3	比較上の留意点 工程3はシナリオにより測定範囲が異なるため、工程4・5を見かけの数字で単純比較することはできない。共通タスクを切り出すなど、集計方法の見直しを検討する。	NTTD
4	上位負荷タスクと不備修正 バレット分析では、保健調査票記入、問診票記入、不備修正対応が上位を占めた。不備修正は電話がつながってから会話終了までを計測対象としているが、再架電、折り返し待ち、時間調整等の見えない工数があるため、ヒアリング結果等も踏まえて評価する必要がある。	NTTD
03_学校・医療機関で見た論点		
1	学校現場の負荷 学校現場では、保健調査票・問診票の封入や配布前準備、回収後の提出確認、封筒からの取り出し、提出有無の突合、不備確認、クラス別並び替え等に大きな工数が発生している。	NTTD
2	具体例 鶴川第二中学校では、生徒685名分について最大7種の用紙を1つの封筒に封入しており、保健事務補助員3名で約3.5時間を要していることがヒアリングで確認された。	NTTD
3	学校側の評価視点 PMH-Webの評価では、入力画面の操作性だけでなく、配布・回収整理など前後工程の事務負担をどこまで軽減できるかが重要な観点になるとの整理が示された。	NTTD
4	医療機関の現状・論点 学校生活管理指導表は、医師が保護者へ説明しながら記入するコミュニケーションツールとして運用されており、単独の所要時間切り出しは難しい。また、文書発行事実の把握、保護者送付のあり方、電子カルテとPMH-Webの二重管理回避、役割分担・連携方法の整理が必要との共有があった。	NTTD
04_質疑・意見交換・閉会		
1	子どもの持参時間の扱い 紙帳票を子どもが学校へ持参する時間も工数としてどう扱うか。 通学そのものはリードタイムとして測定対象外だが、登校後に先生へ渡すまでの時間は対象としており、提出忘れや保護者へ渡らないケース等の定性的効果も別途考慮する必要があると考えている。	デジ行財 NTTD
2	医療機関でのデータ閲覧効果・資料表現 必要情報がその場で閲覧できないことが診察時間を伸ばしている可能性があるのではないかと、持参忘れは体感2割程度あり、PMHでデータが見えること自体は有効であると医療機関ヒアリングから確認できている。	デジ行財 町田市
3	文書料の扱い 受診勧告書や学校生活管理指導表をPMH-Web入力に置き換えた場合に文書料が無くなるのか教えてほしい。町田市からは、現時点の医療機関ヒアリングでは、電子化後も文書代は変わらず費用は発生する想定である。 自治体によっては医師記入に費用が発生するため、保護者が聞き取りで記入している例もあり、将来的に家庭の金銭的負担が軽減される制度設計が望ましいと考えている。 自治体ごとの運用差があるため、標準化や様式整理の論点として扱う必要がある。	APPLIC 町田市 APPLIC 町田市
5	診療報酬・通知整理 学校生活管理指導表は診療報酬上の評価があるため、受診勧告書とは費用負担の扱いが異なるのではないかと、アレルギー疾患に係る学校生活管理指導表については診療報酬の算定対象となっており、情報提供料として医療機関側の収入になる認識はあるが詳細確認のうえ整理したい。	デジ行財 文部科学省
6	総括・閉会 紙とPMH-Webの比較条件を適切にそろえ、引き続き説得力のある実証設計と、しっかりと定量評価された結果報告を提示いただきたい。 残る実証を進め、3月18日の第3回検討会で報告するとともに、報告書案は関係者に提示し意見を得ながら取りまとめる予定である。	デジ行財 町田市